

化学人材育成プログラムのご紹介

◆経 緯

化学人材育成プログラムの創設は、2007年に経済産業省と文部科学省との協賛による「産学人材育成パートナーシップ」で、人材育成に関わる産学双方の横断的な課題について幅広く議論されたことに始まります。その後、2009年に経済産業省が設置した「化学ビジョン研究会」にその議論は引き継がれ、2010年4月に取り纏められた報告書で、技術力強化のため化学産業が取組むべき具体的施策として「化学人材育成プログラム」が提言されました。これを受けて、2010年10月に日本化学工業協会に「化学人材育成プログラム」が創設されました。

◆趣 旨

化学人材育成プログラムは、日本の化学産業における国際競争力の強化と産業振興の基盤となる若手人材の育成を目的に、化学産業界が求める人材ニーズを大学に発信し、これに応える大学院専攻とその学生を産業界が支援するものです。

【化学産業界が求める高度理系人材像】

- ① 特定分野に関する深い専門性に加え、幅広い基礎的学力を持つ人材
- ② 課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材
- ③ リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材
- ④ グローバルな感覚を持った人材

◆化学人材育成プログラム協議会

化学人材育成プログラムに賛同する日本化学工業協会の会員 33社が参加して、化学人材育成プログラム協議会を運営しています。

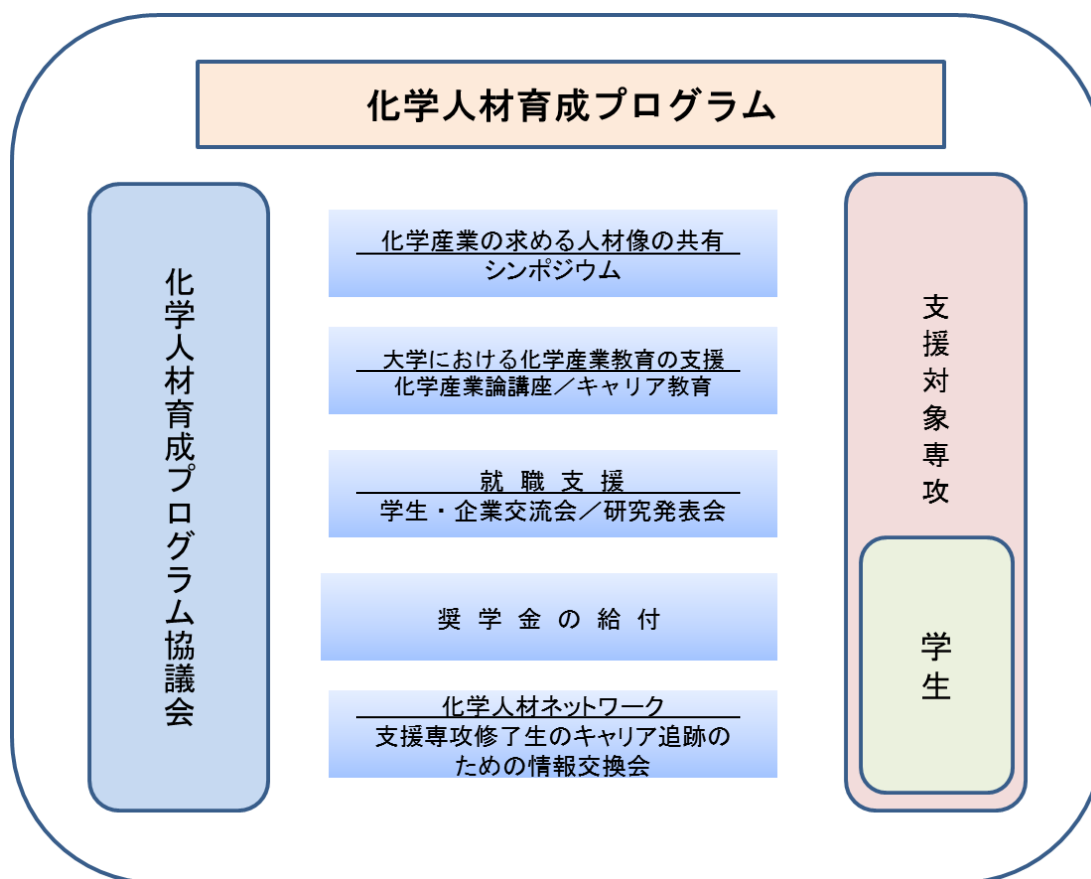
旭化成	A G C	A D E K A	宇部興産
花王	カネカ	クレハ	三洋化成工業
昭和電工	信越化学工業	J S R	JXTG エネルギー
住友化学	住友ベークライト	積水化学工業	ダイセル
D I C	デンカ	東亜合成	東ソー
東レ	トクヤマ	日油	日産化学
日東電工	日本化薬	日本触媒	日本ゼオン
日立化成	富士フイルム	三井化学	三菱ガス化学
三菱ケミカル			

(2019年4月現在、株式会社省略)

会 長	淡輪 敏 (日本化学工業協会 会長、三井化学株式会社 社長)		
会 長 代 行	福田 伸 (三井化学株式会社 常務執行役員)		
幹 事 会	会長の委嘱を受けた幹事会委員により構成し、事業計画案、予算案等を作成		
審 査 委 員 会	会長の委嘱を受けた会員企業が選出した審査委員並びに会長が委嘱した有識者委員により構成し、化学産業が望ましいと考える教育及び人材育成を行っている大学院専攻を支援対象に選定		
そ の 他	必要により作業部会を設置		
後 援	経済産業省	文部科学省	公益社団法人日本化学会 公益社団法人化学工学会 公益社団法人高分子学会

◆プログラムの詳細内容

1. 化学産業界が求める高度理系人材像の発信と産学の共有、及び大学院専攻における高度理系人材育成の先進事例の横展開のためのシンポジウムの開催
2. 支援対象専攻の優れた取組みを日化協HPに掲載
3. 化学産業教育の支援（化学産業の魅力、化学産業界が求める高度理系人材像、キャリアパスなどを発信）
4. 化学産業（企業）の理解浸透及びキャリアデザイン支援のための学生・企業交流会の開催
5. 学生の研究活動に関して、学生と企業との交流の機会を提供するための研究発表会の開催
6. 支援対象専攻の中から、特に優れた人材育成の取組みを行っている専攻を選定し、各専攻から推薦された学生に対して奨学金を給付
（1 学生あたり月額 20 万円を 3 年間支給、1 専攻あたり 1 学年に 1 名を推薦）



◆実績

①支援対象専攻

全国の大学院化学系専攻(博士後期課程)の中から、化学の基礎・応用研究と並行して、リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材、グローバルな感覚を持った人材育成など、化学産業界が望ましいと考える博士後期課程の教育カリキュラムを実践する大学院専攻を選定し、化学産業教育の提供、企業交流、就職説明会の開催、奨学金の給付などの支援を行っています。

[支援対象専攻:12 大学院 19 専攻 (2019 年 4 月現在)]

大学院	研究科・府・院	専攻
北海道大学大学院	総合化学院	総合化学専攻
東北大学大学院	工学研究科	応用化学専攻・化学工学専攻・バイオ工学専攻
	理学研究科	化学専攻
東京大学大学院	工学系研究科	応用化学専攻
		化学システム工学専攻
		化学生命工学専攻
	理学系研究科	化学専攻
東京工業大学*1	物質理工学院	応用化学系
早稲田大学大学院	先進理工学研究科	応用化学専攻
横浜国立大学大学院	工学府	機能発現工学専攻
北陸先端科学技術大学院大学*2	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻
京都大学大学院	工学研究科	合成・生物化学専攻
		材料化学専攻
奈良先端科学技術大学院大学*3	先端科学技術研究科	物質創成科学領域
大阪大学大学院	工学研究科	応用化学専攻
	理学研究科	化学専攻
大阪市立大学大学院	理学研究科	物質分子系専攻
九州大学大学院	工学府	物質創造工学専攻
	理学府	化学専攻

*1 : 2016 年度の組織変更(集約・変更)と旧専攻所属学生の修了

*2 : 2016 年度より研究科・専攻の集約、名称変更

*3 : 2018 年度より研究科・専攻の名称変更

②大学における化学産業教育の支援

学問である化学と化学産業との結びつきなど化学産業界の理解を深めることを目的に、会員企業より講師を派遣する「化学産業論」講座を開講しております。

2018 年度は、神戸大学、大阪市立大学、及び東北大学で各々7 コマの講義を実施しました。受講した学生からは、企業の声を直接聞けるよい機会だと、高い満足度が得られています。

③化学産業(企業)の理解浸透及びキャリアデザインのための学生・企業交流会の開催

化学系専攻の博士後期課程学生の就職支援を目的に、毎年、東京・大阪で開催しています。

■企業説明:協議会企業の人事担当者、研究開発担当者が支援対象専攻の学生に対して、自社の研究開発内容や博士採用方針及び博士の入社後のキャリア等について説明

■ポスター発表:参加した学生の殆どがポスター発表を行い、自らの研究内容を企業にアピール

■懇親会:学生と企業の情報交換



2018年度の開催状況は次の通りです。

・東京会場(2018年1月16日)

参加者:企業23社、学生9専攻37名

・大阪会場(2018年1月31日)

参加者:企業21社、学生6専攻31名

④大学と会員企業との交流の機会を提供するための研究発表会等の開催

以下のイベントを開催してきています。

イベント	時期	場所	内容
シンポジウム	2011年9月	東京 大阪	<シンポジウム> ・化学産業界、関係官庁、支援対象専攻の各々による講演と講演者全員によるパネルディスカッション等 ・博士人材の必要性、期待される人材像について講演 大学院教育カリキュラムの改革事例の紹介
	2016年7月	東京	
	2017年7月	東京	
シンポジウム & 研究発表会	2012年10月	東京	<研究発表会> ・支援対象専攻の博士後期課程学生による研究発表
研究発表会 & 博士活躍事例 紹介	2013年～ 2018年 (10～11月)	東京	<博士活躍事例紹介> ・博士を修了して企業に入った若手研究者による、自身の担当テーマやキャリア、経験等の紹介 <産学意見交換会>
産学意見交換	2018年10月	東京	・大学教員、企業関係者との意見交換の場の提供。 (日本化学会、新化学技術推進協会と共同開催)

⑤奨学金の給付

これまでの奨学金給付実績は、以下の通りです。

年度	大学院専攻数	奨学生数
2011	3 大学院 4 専攻	4 名
2012	6 大学院 8 専攻	12 名
2013	10 大学院 12 専攻	24 名
2014	10 大学院 12 専攻	32 名
2015	10 大学院 13 専攻	35 名
2016	11 大学院 14 専攻	31 名
2017	12 大学院 15 専攻	29 名
2018	10 大学院 13 専攻	28 名



研究発表会&博士活躍事例紹介(2017年10月)

以上